関西大學新報
発行所
大阪市大淀区長柄中通
関西大学天六学舎内
関西大学新報社
電話堀川㊟1756番
発行人　奥谷　博之
(定価一部十円)

大学祭 前夜祭挙行に決る

一二部の要望遂に実現

最初の大学祭打合せ会からはっきりと、二部対立をみせていた前夜祭の挙行問題は、その後の準備会においても、もみ抜いて一時は問題の解決を一、二部にだされた学生の意志に答えようという強硬意見まで出たが、七十周年記念の大学祭でもあり、また二部の強い要望もあって九月二十四日の準備会で妥協案に達し、ついに今年も前夜祭を挙行して大学祭をより意義あらしめることになった。

二部学生のための大学祭、前夜祭をあくまで開きたいという二部側の要望に対して、一部側代表はいぜんとして"予算の都合"を理由に反対の態度をかえず全く行き詰り対立したまま、九月十五、二十四日開かれた大学祭準備委員会で、この問題について、さらに検討を重ねた。

席上、学校当局の強い要望もあって止むを得ず、二部代表園田委員長は前夜祭に関して別途予算を計上し部の責任において資金を調達し準備を進めることで一部側反対派の説得に成功した。

八月十五日の初の準備委員会から実に一ヵ月ぶりで妥協解決を見出したものであるが、もめていた前夜祭は大学祭の一環として予定通り十一月二日天六学舎で開催することと正式に決定したのである。

そこで開催本決りとなった前夜祭の準備打合せは、さる三日天六学舎で竹本副執行委員長、田口応援団副団長、岡田文化部長、丸岡学寮部部長、藤田新聞社論説委員長の各代表に、短大河野委員長、一部から井上新聞会主任、広瀬学研部長を迎えて初めての打合せを行ったが、連絡の不徹底のために、一、二部とも関係代表者の出席は殆んど期待のうちに行なわれた。

まず短大河野委員長は特に学寮部を求め、当初、短大からプログラムの参加を予定していたE・S・Sは部内事情により参加することができないと通知があって学部側は了承した。次いで竹本副執行委員長は二部案のプログラムを提出、一部の参加意志をただしたところ一部側代表は一部の総意を代表して発言することは差控えわりがあり新聞、学研としては「今のところ参加する予定はなく、今日即席している文化、応援、体育、放送、雄弁会など各部とも話合ったとて改めて打合会を開きたい」と要望があり、何んら具体的な結論も出ぬまま意見を交換しただけで散会した。

ついで十月十二日には参加を希望した一部音楽クラブ、英文学研究部、軽音楽、映画、弁論の各部、女子同好会、応援団の九パートで正式に前夜祭準備委員会を構成、順ちにプログラムおよび予算の編成に入ったが各部とも時間、予算の制振で利害が対立、延々三時半にわたって協議、激論を重ねたのち決定をみた。当日のプログラムと各部割当の予算は次の通りである。

一、プログラム

大会宣言　午後五時
熟行委員長（一、二部、短大）挨拶
学長挨拶
学生部長挨拶
軽音楽　軽音楽部（二十五分）
英語スピーチ　英文研（十分）
コーラス　リーダークランツ（三十分）
合唱　一部音楽クラブ（十五分）
詩の朗読　女子同好会（十五分）
演劇　学寮部（三十分）
学歌と応援　応援部（十五分）
閉会　映画部（八十分）
二、予算（単位円）

	一部	二部
弁論部	一、八〇〇	
音楽クラブ（一部）	一、〇〇〇	
女子同好会	一、〇〇〇	
学寮座	三、〇〇〇	
映画部	八、〇〇〇	
写真部	一、〇〇〇	

その他、会場費、記念講演、宣伝費などで一〇、〇〇〇円が計上されている。

奨学生の懇談会開く

日本育英会の奨学生懇談会は去る五日から伊勢に行われており、山田学生部長の育英資金の性質と使用などに関しての注意と学生課からの貸与に関する事務上の注意などについて話合われてきいる

学友会有給職員決る

執行部では学友会規約の第四十六条、四十七条に基ずき有給職員を一名採用、学友会事務にあたってもらうことになった。

有給職員選考については反現休職前の自治委員会久門、石井、黒田、梅野君らの各自治委員を審査員に選出、執行部が条件としていたもので、その応募者は外部から採られて十月二日の採用日には六十数名の応募者がおしよせ、書類審査、面接の結果、最後に四名だけがのこされ、そのうちから河野智嘉子さんをを執行部が再審査の上で採用することになったものである。なお、河野さんはすでに学友会書記の任にあたっている。

求人会社の出足好調

昨年より楽観できるか

就職状況

全国各大学の就職戦線は例年のように十月一日から火ぶたを切った。本学においても就職課の求人会社発送、就職指導が開始されるや、来春卒業の学生は就職問題に積極的に動きまさせ、願書の提出推せん状の依頼などで連日就職課をにぎわせている。

本学の来春卒業予定者は一部で千九百十五名、二部で千三十五名を有しており、そのうち就職希望者（求職票提出者のみ）は一部が約七割の千三百四十一名、二部では二百九十一名となっているが、一部の場合は一部と比較して希望者は卒業予定者の二割八分で非常に少く、多くの者は操職にとどまるのではないかとみられている。

次に求職票提出者から各学部別の求職希望の業種別を見ると別表の通りであるが、やはり昨年と同じく通信、運輸、サービス業の希望者が多く、注目されるのは銀、小売商の希望者が多くなっていることである。

学校側の希望者はサービス業の中に含まれており、その数は文学部二四名、法学部十五名、経済学部七名、商学部五名でサービス業の大半をしめている。

一方、就職戦線の状況はこのほど発表された求人会社から見ると昨年と比べて求人会社の出足はよく、十月八日現在で百二十数社を数えて昨年の約三倍、そのうちも二流会社の求人が大半で、それも金融関係会社、サービス業関係会社の順で一般商社の求人は少い。

だが富士銀行、東海銀行、日本勧業銀行などのように金融関係会社の中では"一部のみ"と求人に条件をつけてきているものがあり、今年も二部学生の門戸を閉す会社が見受けられる。

そこで、ところでは文学部学生の求人が少いなかで旭化学KKのように求人の条件として法、経、商学生と、文学部は新聞学科学生のみよりといった求人会社もあり、新聞学科学生を喜ばせている。

目下のところでは中小企業の求人はまだ見られず就職運動が展開されて間もないので、願書の提出にとどまっているが、本格的な就職運動はこれからだ、と昨年と比べて幾分楽観できるのではないかとみられる。

次に求人会社の新しいところをひろってみると

日本経済新聞社大阪支社、博報社大阪支店、資生堂、中部電力、名古屋鉄道、久保田鉄工KK、鐘淵紡績KK、新日本放送KK、河内銀行、富国信用、商本産業、東洋経済新報社、NHK、共同通信社大阪支社、大阪テレビKK、朝日新聞大阪本社、読売新聞社、大丸百貨店、阪急百貨店、朝日ビール、山形就職課談話　今年は昨年にくらべて比較的楽観できるのではなかろうか。だがいつもいっているこんだが合格の鍵は語学にあるのだから、学生諸君は一層語学力の向上に努力して欲しい。

求人件数紹介数共半分近くに低下し

アルバイト　七月が最高潮

最近アルバイトによる学資を求める学生が急速に増加したが、六月からの状況をアルバイト係で調べたところによると、先ずアルバイト求人先は、鉱業二、建設三、製造四、卸小売五、商事の順となっている。

七月の求人数は夏期休暇に入ったためか、千百余名となり最高を示した。しかも一日平均賃金も三〇〇円を突破する好況を呈した。ところが同じ休暇中でも八月に入る前期試験の準備もあってか求人件数紹介数共半分近くに低下した。

六月から九月にわたる間の状況をみると、六月が求人件数二九八件、七月三一七件、八月一九一件、九月二四八件と相当の波があり、それにつれて求人数も六月七六八名、七月一一一八名、八月六四三名、九月八六五名と大体求人件数に比例して増減しているようである。

労働種別としては各月通じて雑役がもっとも多く、経理事務関係は非常に少ない。また賃金は平均約三〇〇〇、最高は大阪洋毛の九〇〇円、最低は配達で一〇〇円といったところが変り種である。

昨年度の状況

東京学生相談所の集計

東京九段にある東京学生相談所では昭和二十九年度の学生アルバイトの斡旋を行っていたが、このほど資料としてまとめた。それによると、年度別の斡旋状況では、二十九年度はデフレ政策の影響が強しく現れ、就職は二割程度増しにもかかわらず、求人の方は前年の八割六分にすぎず、従って就職率は過去四年間に三割以上あったが、二割四、五分に低下した。なお、項目別の調査表は次の通りである。

一、求職状態

国公立、私立別になると私立大学の求職率が七十二%を占め圧倒的に多いが、これは学宿生が多いこと、授業料の出費が国公立に比べてかさむことが影響していると考えられる。また文科系に比べ非常に多いのは、実習などの関係で当然の結果である。

一、求人状況

建築別になると、製造業が四十七%と他を引離し、これについてはサービス業が二十五%となって建築第二位だった卸、小売業を上回り、また仕事別ではやはり雑役関係の仕事が六十%と大半を占めている。

一、就職状況

一般に男子は過労の希望者が最も多く、女子は事務関係が圧倒的に多い。また登録者一人当りの収入額は年間約二万六千円、就職日数は百日となっている。

一、勤務状況

求人側の意見を綜合したところによると、積極的によく働いたと答えているのが六十%、迷惑したと答えているものの約四%であるが、迷惑したという理由の中には遅刻、無断欠勤が大部分を占めている。

延納願は二十日から

本学学生課では後の延納願出の期限を次のように発表している。

受付日　十月二十日
締切日　十月二十九日

明春に完成か

天六学舎の増築設備計画はこの後敷地の関係から未だはっきり決定されていないが現在のところ本年度内に完成を目標に学舎、西隣の敷地には約四〇〇坪の大体育館の建設と現体育館は学生整備に改装されるはずで二部学生の厚生施設も徐々に完備されることになる。

推せん入学廃止

来年度入試要項決る

来年度の入試要項が、このほど試験準備委員会から発表された。これによるといままでの学部推せん入学制度が廃止され、各府県ごとに教育委員会による一名ずつの推せん制度がとられている。

試験期日などは次の通りである。

一、試験期日
二月二十六日　文学部
〃　二十七日　法学部
〃　二十八日　商学部
〃　二十九日　経済学部
一、試験場
一部は千里山学舎、二部は天六学舎において行う
なお特別奨学金制度については例年通り実施されることに決定した。

新経済学部長に望む

経済学部の一部長の改選を機会に、新学部長に一言お願いしたい思う。

私が三年間の在学中に最も痛感したのは、経済学部が歴史の浅い文学部、商学部にくらべて一段と見劣りのするという感じである。それは学生数に比して教授が余りにも少ないということもあるが、その点は大学当局にお任せするとして、経済学部が他学部にくらべて劣ってはいないということもあるが、その点は大学当局にお任せするとして、経済学部が他学部にくらべて劣ってはいないということです。

本学では一般教養科修得者にでも専門科目の履修を認めるという不合理さを感じており、私はその点から問題であると思うのに、経済学部では例外学生修得者にでも必修科目である「外国語講読」の履修を認めているということは全く理解出来ません。

また学生にとって最も意義深いゼミナールを全員履修出来ない有様であるとの教授が、二部では本開講とはいっているのはどうしてでしょうか。専任教授である以上は一二部の、差別をする理由はないはずです。

実例をうげれば限りがありませんが、私もこれで三部学生として特に不公平だと思うものであります。

この点新学部長の抱負をお聞きしたい。

（経三Y・T生）

学友会ニュース発刊

学友会執行部では本年度初めての計画中であった"学友会ニュース"を製作、創刊号を十月八日に発行、学生に配布している。

弁論部長に大中君

弁論部では十月一日をもって次の通り役員の改選を行った。

部長　大中　由春（文三）
幹事長　宮名田出夫（法三）
総務長　森本　賢一（法三）
会計長　末岡　稔啓（経二）
渉外長　田畑　二生（経二）

近文研・国文研共催　文芸講演会

近文研では来る十月廿三日（日）午後一時から潮田新聞社講堂において、例年のように近文研、国文研共催による文芸講演会を開くことになった。講師には文芸評論家荒正人氏、本学からは広瀬哲三渡辺格両の両教授らを予定している。

写真部　奈良で撮影会

写真部では同部の創立五周年記念行事の一環として、さる二日（日）に観光バス借切りによる撮影会を奈良公園で行なった。

当日は天候悪く、小雨が降っていたが、先着、現役、特別招待者など約六十名が参加、多大の成果をあげた。

なお当日撮影した作品は大学祭に出品、展示される予定である。

十三連勝の偉業成る

卓球部　秋期リーグ戦に

卓球部では七日の対慶応大定期戦に優勝した広田、伊藤の両選手を中心に、九月十七、八日の両日に上六卓球センターで開かれた大阪学連秋期リーグ戦に出場、"大阪歯

関西大学新報社

論説　自治会を全学生の中に

過去学生大会といえば、実に頻々として開会されたというにもせいぜい三、四百名程度、さもなくば流会というのが慣例であった。今この問題を深く掘り下げてみると、いくつかの原因を列挙することが出来るが、その中で、最も重要な密接関係をもっているのは、全学生の自治委員会組織であろう。

波乱の中にも一応公選されたのが五月、間もなく半年を迎えようとしている。この半年近くをふりかえってみると、だれもが感じるのが「この自治会が本当にわれわれの役だった」という感激の念である。たしかわれわれの代表として送り出した自治委員は、裏を返せばクラブを代表しての委員であっては、われわれの意思を代表した委員たろうか、という疑惑の念を投ずる向も然であろう。クラブも学友会の機関であり、十分な活動態勢を整えている以上、これを代表した委員であっても何ら不満はないクラブから選出された委員で占めたならどうだろう。学生数は各クラブの全部の数より多く、しかも何らのクラブに属していない学生は何の組織をもたないことによって、委員の機会を得ることができず自治委員に対する不満は、これを代表した委員であっても何ら不満はない。しかし自治委員全てが各ク

孤独の中で学友会活動
望まれる自治会との結合

昨年度一年間学友会の書記長として三部学友会のため献身努力し、今年もまた再選され、この活躍を期待されていた山本博道君が阿蘇山上でついに自らの若い生命を絶ったことは、彼を知る友は勿論、系内に溯った現代の学生生活に悩む多くの学友にとっても大きなショックであったに違いない。本紙でもこの問題を重視し、このような事件を再び学友の中から出さないよう、山本君のケースをふりかえって語り合っていたとき、また自殺という本質的な問題について本学の川口、勇本両助教授に執筆していただきました。

写真は右から宮川、國田、本園、丸岡、松本、竹本、望月の七君による座談会

——熱行部の書記長として、また学研、文化など各方面にわたって昨年は非常に活躍をしていた山本君が、突然家出し、阿蘇山上で服毒自殺をしたことが確認されたわけですがこの事件についてまず彼を死に導いた原因からでも話していただきましょうか。

望月　まあ僕が一番親しい間柄であったところから話しますが彼の日常生活から考えると哲学とか、文学とか、そういったものをやったために死を選んだのじゃないと思う。彼の高校時代の写真の裏に「自分は努力をすれば、いろんな力を発揮することが出来る」といった意味のことを書いているんだ。ところが大学へ入ってみると、高校時代とは全く条件が違って来ている。何とかやりたいと思うが、思うようにゆかず、そこで「問題の学生は話しても判らない」ということで来る。その上、山本君の性格として、非常に気の弱い男でいつも孤独感に襲われていたようだ。

宮川　僕自身は、それほど彼と親交が深かったとはいえないが新聞の眼を通して見たとき、彼ほど手広く学友会のために活動したものはないと思うネ。それだけに、活動自体深さがたりなかったんじゃないかな。たまたま失恋という人生の決定的な打撃に直面して、自殺のあらゆる悩みが一挙にして死を選ばせたのではないだろうか。推測すればいろんな原因が考えられるが、直接の動機はやはり失恋だったと思うネ。

竹本　いや、僕はそれよりもあのころ、彼の悩みだった父の有田派選挙違反が原因だったと思う。彼のもっていた思想とは全く逆の光などのコースに送られて永き眠りについた。

山本君問題の経過

六月七日、書記長に再選、その後一週間を経ずして十三日に失踪したが十六日になって八月末が届き、調査の結果、九州方面に向ったことが確認された。

その間、熱行部では学生大会などに追われ、単に家族からの捜索を問いて慰めることにしたが、七月二十二日の朝刊に「関大生自殺か」という記事が出て、あわてた熱行部では竹本副委員長、松本書記長を九州に派遣、調査にあたらせた。

しかし第一回の調査では全然手掛りがつかめないままに帰阪したところが八月八日になって、阿蘇の警察から死体が発見された旨、ひられ、熱行部から國田委員長、松本書記長が現地に急行、山本君の自殺を確認し、遺骨を胸に涙の帰阪をした。

八月七日には学友、職場の知人などにかこまれ、しめやかに葬儀が行われ、学歌、学働歌、はたまた光などのコーラスに送られて永き眠りについた。

戦後の状況は世界到る処で、またあらゆる分野に混乱を感じている。歴史はめまぐるしく回転している。私達自身の状況もまた一層切迫しているのだ。一時の熱潮に盲目打ち上げられた者も、またその退潮に抗し得る力をもっているとは限らない。

また二つの重大生命が、自らの手によって断たれた、幾多の存在を残しつつ逝いた其人の霊にはただ瞑福を祈るのほかない。

だが私達はどうなるのか、私達の上には明日も太陽が昇る。不安と落着きのない現実が待ってこの太陽を受け止めねばならないのであれば……。

私達の状況は何気なく生きるには余りにもきびしい。そこにはみづからを突へ追い込むような種々の条件が伏在している。

発作的ペシミズム——失恋、失業、疾病、失敗、敗北等の直接的動機は、それ自身ではさほど十分に説明されるものではない。ただこれが死への多くの条件を誘発するのだ。

コミュニケーションだけではない、私達の身体、学習、生活によるグループ、ダイナミックスそれ自体がそれにペシミズムである。このペシミズムは必ずしも意識されていない。それだけに深刻である。自分の幸福としては一層深刻である。また他人の幸福よりは一層重要なるものが欠けている。

私達の生の意義、その目標、何のために、「生」が欠けている。それは今日完全に弱化し無気力となった虚脱の無政府状態の下で混迷のうちに埋没し去っている。目標の欠如のうちに埋没し去っている。これをこそ「ニヒリズムだとされば、ペシミズムはこのニヒリズムの必然的結果である。一時的ペシミズムの根底にはニヒリズムの論理がある。

この状況の根本徴候を深く省察することなく、個人の心理や社会の体制や、また教育を論じることは自体がこの状況に属するものとして反省されねばならない。そこでは政治も教育も事柄の外廓だけを処理しようとする根本的なペシミズムに手を触れない。苦痛の回避、快適な睡眠への誘惑、要するに幸福の技術——私達の学問がこのように無気力であるもの、そして、しばしば、頭のいい誠実な青年が、この真剣に打ち込みのゆえに、行き詰りをとうすることも出来ないようになって来るという悲劇が起る。それは、ただ単純に図式化してしまえばこういうことになるのだろうが、いったもこんな単純な図式で捉え得ないような現象形態を持っているところに問題がある。あるいは思想的な悩みであり、あるいは宗教的な悩みであり、こみ入った心理的な悩みであるからなのだ。